

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

城東小学校
「学力向上実行プラン」

認め合い、伝え合い、学び合う児童の育成
～一人ひとりが活躍できる教育の在り方～

学力向上推進員 教諭 5年 長岡 鷹太	委員 校長	栗村洋子	1年主任	平野真弓美
	教頭	大西希代	2年主任	吉田幸代
	教務主任	林容子	3年主任	山田佐和子
	研修主任	長岡鷹太	4年主任	山中真紀
	特別支援教育主任	長井恭子	5年主任	長岡鷹太
			6年主任	佐藤大典

校長
栗村 洋子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

「学習のしかた」がわかる授業づくり

【各校の取組状況の把握について】

各校で進めている取組状況を、拠点校事業で共有する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についており、与えられた課題にも意欲的に取り組める児童が多い。 ●学力に差がみられ、学習内容について、既習の内容や他教科と関連づけて深く学ぶことを苦手としている。	・自分の理解度に合わせて学習を進めることができる。	・学力調査やステップアップテストの結果から児童の学習状況を把握し、課題点を意識した授業づくりを行う。 ・スモールステップで学習を進める。 ・朝のスキルアップタイムを活用し、ICT等を活用した個別のドリル学習の時間を設ける。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教室での発表や話し合い活動など、意欲的に発表しようとする児童が多い。 ●自分の考えをまとめたり表現したりすることを苦手としている。	・自分の思いや考えをもとにわかりやすく伝えることができる。 ・友達の思いや考えをきくことができる。	・多様な表現方法を提示する(思考ツール、学習シート、ICT機器の活用)。 ・友達とお互いの意見を伝え合う場を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や決められた課題について、まじめに取り組もうとする。 ●自ら考えて課題を決め、学習に取り組むことを苦手としている。 ●進んで学習する態度が十分身につけていない児童がいる。	・子どもが課題解決の方法を自分で選ぶことができる。 ・自分の学習をふりかえって次につなげることができる。	・課題解決のための学びの方法を提示し、児童が選択できるようにする(教科書、インターネットで調べる、教師からヒントをもらう、友達の意見を聞くなど)。 ・毎月の学習チェックシートから子どもの学習状況を見取り、指導改善に生かす。 ・学びのふり返りの場を充実させる。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

